

問1 昔と比べて魚の生産量が減っている中で、養殖漁業がさかんに行われるようになった一番の理由は何ですか。

問2 標高が高く、夏でもすずしい気候を利用して、キャベツやレタスを育てる農業を何といいますか。

問3 海の中に「いけす」などの施設を作り、魚や海そうを人の手で管理して育てる漁業のことを何といいますか。

問4 「地産地消（ちさんちしょう）」とは、どのようなことですか。

問5 遠洋漁業の生産量が、1970年代から大きく減り続けている主な理由は何ですか。

問6 魚を卵からかえした稚魚などを、いけすなどで大きくなるまで人工的に育てて出荷する漁業を何といいますか。

問7 畜産のなかでも、特に乳牛を飼育し、牛乳やバターなどを生産する仕事を何といいますか。

問8 漁港の近くに「加工工場」があることで、どのような良さがありますか。

問9 農薬や化学肥料にたよらないで行う栽培方法を何といいますか。

問10 牛やぶた、にわとりなどを飼って、肉や牛乳、卵などを生産する仕事を何といいますか。

問11 漁業資源を守るために、国や自治体が行っている「とれる魚の量や期間を制限する」取り組みのことを何といいますか。

問12 人工的に育てた稚魚を、ある程度の大きさになるまで守ってから海や川に放し、自然の中で成長させてからとる漁業のことを何といいますか。

問13 農家が収穫したお米を、市場などを通さずに消費者のもとへ直接送る販売方法を何といいますか。

問14 その土地の気候や風土に合わせて、より育てやすくおいしい農作物の種類を新しく作り出すことを何と言いますか。

問15 林業で、木が十分に育ったあとに、それらを切り出して木材にする作業を何といいますか。

問16 生産者が育てた野菜や果物を、スーパーマーケットなどの間に入るお店を通さずに、お客さんに直接売る場所を何といいますか。

問17 大都市の近くで、消費者の好みに合わせて新鮮な野菜をたくさん作り、トラックを使って素早く届ける農業を何といいますか。

問18 漁港の近くに建てられている、水揚げされた魚を競りにかけるための施設を何といいますか。

問19 長野県や群馬県などの涼しい地域で、夏の涼しい気候をいかしてキャベツやレタスを育てる主な目的は何ですか。

問20 農家が「産地直送」でお客さんに商品を届けることで、どのような良いことがありますか。

## 答え合わせ・解説 No.1

問1	<b>答え</b> 魚を計画的に育てて、安定してとどけるため	とる漁業だけでは魚の数が足りなくなってしまうこともあるため、施設を利用して自分たちで計画的に育てることで、いつでも安心して魚を食べられるようにするのが養殖漁業の大切な役割です。
問2	<b>答え</b> 高冷地農業	標高が高い場所にある高原などは、夏でも気温が低くずしいため、暑さを苦手とする野菜を育てるのに適しています。このような気候の特徴を活かした農業を高冷地農業と呼びます。
問3	<b>答え</b> 養殖漁業	海の中にいけすなどの施設を設けて、魚や海そうを計画的に育てる方法を養殖漁業と呼びます。栽培漁業は、卵からかえした稚魚を育ててから海に放す漁業のことなので、施設で最後まで育てる養殖漁業とは区別しましょう。
問4	<b>答え</b> 地元でとれた農産物を、その地域で消費すること	地産地消は、自分たちが住んでいる地域でとれた食べ物を、その地域の中で食べることを指します。輸送する距離が短くなるため、新鮮なものを食べられるだけでなく、運ぶときのエネルギーを減らせるという環境にやさしいメリットもあります。
問5	<b>答え</b> 排他的経済水域の取り決めなどができたため。	遠洋漁業は、排他的経済水域の取り決めなどができたことにより、遠くの海で自由に漁ができなくなったため、1970年代から生産量が大きく減り続けています。
問6	<b>答え</b> 養殖業	卵からかえした稚魚などを、いけすなどを使って人工的に大きくなるまで育ててから出荷する漁業を「養殖業」といいます。
問7	<b>答え</b> 酪農	畜産のうち、特に乳牛を飼って牛乳やバター、チーズなどの乳製品を生産する仕事を酪農といいます。
問8	<b>答え</b> 獲った魚を新鮮なうちに加工して、製品として売ることができる	獲った魚をすぐに加工することで、保存がきくようにしたり、料理しやすくしたりできます。このように工夫することで、魚の価値を高め、おいしい状態で全国に届けることができます。
問9	<b>答え</b> 有機栽培	農薬や化学肥料にたよらないで行う栽培方法を有機栽培といいます。
問10	<b>答え</b> 畜産	牛やぶた、にわとりなどの家畜を飼育して、肉や牛乳、卵などを生産する仕事を畜産といえます。
問11	<b>答え</b> 漁獲規制	将来もずっと魚をとることができるように、とりすぎを防ぐためのルールを設けることを漁獲規制といえます。単に魚をとることを禁止するのではなく、量や期間を計画的に管理することで、魚の数が減るのを助けながら、安定した漁業ができるようにしています。
問12	<b>答え</b> 栽培漁業	栽培漁業は、稚魚を放流して自然の海や川で育てる手法です。これに対して「養殖漁業」は、いけすなどの施設の中でえさを与え、完全に人の手で管理して育てるという違いがあります。
問13	<b>答え</b> 産地直送	生産者が育てた作物を、市場や問屋を通さずに消費者に直接届ける仕組みを「産地直送」といいます。間にはさまる業者を減らすことで、新鮮な状態のまま消費者に届けたり、生産者の顔が見えて安心感を持ってもらえたりするなどの良い点があります。
問14	<b>答え</b> 品種改良	品種改良とは、より病気に強く、味や見た目が優れた農作物を生み出す技術のことです。農業試験場では、地域ごとの気温や土壌の特徴に合わせて、この品種改良がさかんに行われています。
問15	<b>答え</b> 伐採	長い年月をかけて育てた木を、木材として利用するために切る作業のことを伐採といえます。植林は苗木を植えること、枝打ちは節のないきれいな木にするために枝を切り落とすこと、間伐は成長を助けるために木を間引くことを指します。
問16	<b>答え</b> 直売所	生産者が自分で育てた農産物を、卸売市場やスーパーマーケットなどの間に入るお店を通さずに、消費者に直接売るところを「直売所」といいます。収穫したばかりの新鮮なものが手に入ることや、生産者の顔が見える安心感があることが大きな特徴です。
問17	<b>答え</b> 近郊農業	大都市の近くで行われるこの農業は、消費者に新鮮な野菜を届けることが大切です。そのため、トラック輸送などを利用して、大都市の人々が求める野菜を計画的に出荷する工夫がされています。
問18	<b>答え</b> 魚市場	獲れたばかりの魚が集められ、値段を決める「競り（せり）」が行われる場所のことです。ここで決まった魚が、日本各地のスーパーやお店へ運ばれていきます。
問19	<b>答え</b> 本来の旬とはちがう時期に出荷して一年中食べられるようにするため	夏の涼しい気候を利用して、ふつうの地域では野菜が育ちにくい時期に栽培することを「抑制栽培（よくせいさいばい）」といえます。これにより、本来の旬とはちがう夏の間にも、新鮮なキャベツやレタスを消費者に届けることができます。

---

**問20 答え**

中間にかかる費用をへらして新鮮なものを届けられる

産地直送の大きな特徴は、市場や卸売業者という「中間」のステップを省くことです。これにより、輸送にかかる日数が短くなって新鮮なものが届くだけでなく、中間にかかる余計なコストを抑え、農家にも消費者にも適正な価格で取引ができるようになります。

---